

氏 名 成 岡 梨 絵

学位の種類 修 士 (看護学)

学位記番号 修 士 第 1 0 9 号

学位授与年月日 平成2 0 年9 月3 日

学位論文題目 母子間の情動的コミュニケーションに介在する要素
に関する研究 自閉症スペクトラム障害児の母親を
対象にして

論 文 内 容 要 旨

| | | | |
|--|--|---------------|------------------|
| ※整理番号 | 113 | (ふりがな) 氏 名 | なるおか りえ 成岡 梨絵 |
| 修士論文題目 | 母子間の情動的コミュニケーションに介在する要素に関する研究 自閉症スペクトラム障害児の母親を対象にして | | |
| <p>目的：ASD は Wing の障害の 3 つ組によって特徴付けられる障害であり、ASD 児・者はコミュニケーションの困難さを抱えている。しかし、言葉や身振りなどの象徴的コミュニケーションが困難であっても、それを支える情動的コミュニケーションによって意図の共有や気持ちが通底するという事態が起こる。母親と ASD 児との情動的コミュニケーションが促進されれば、母親の子育てに対する満足感や、子どもの対人関係の障害も軽減できると考える。本研究は ASD 児と母親の情動的コミュニケーションに着目し、母子間の情動的コミュニケーションにどのような要素が介在しているのかを明らかにすることを目的とするものである。</p> <p>方法：研究者がボランティアとして参加している、近畿地区の ASD の親子のグループに所属している母親に協力を依頼した。協力の得られた 3 名の方に対して半構成面接を実施し、質的帰納的な手順によって分析した。</p> <p>結果：【子どもの特殊な認知の仕方】【子どもとのコミュニケーションテクニック】【身近なリソースの活用】【体験を重ねた親子相互の成長】【子どもの将来への期待と不安】の 5 の上位カテゴリーが抽出された。</p> <p>考察：【子どもの特殊な認知の仕方】がコミュニケーションを困難にさせる要因になっていたが、母親は【子どもとのコミュニケーションテクニック】によって双方向のやりとりを可能にし、長い経験の中で積み重ねてきた努力が、情動的コミュニケーションを促進する一つの要素と考えられた。【身近なリソースの活用】によって母子関係以外の関係性の中で、コミュニケーションや社会性の拡大を図っていた。それらは【体験を重ねた親子相互の成長】へとつながり、子どもの成長が母親に喜びや感動をもたらし、その感動が子どもに伝わるという情動的コミュニケーションの循環が見られた。以上のことには【子どもの将来への期待と不安】という母親の思いが深く影響し、このカテゴリーによってコミュニケーションは動機付けられ、情動的コミュニケーションの成立に関わっていた。</p> <p>看護師は情動的コミュニケーションを促進するために、母親と子どもとの間にどのようなことが起こっているのかを言語化して伝え、肯定的に捉えられるようにすることと、母親のありようをそのまま受け止める関わりをすることが重要であると考えられた。</p> <p>総括：情動的コミュニケーションは無意識に行われているため、面接のみのデータ収集方法では必要なデータが十分に収集できているとは言い難い。参加観察や記録物を参考にし、包括的にデータを収集する必要がある。また、多様な背景の方々に研究協力者となっただき、偏りをなくしていくことも必要である。</p> | | | |

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)
2. ※印の欄には記入しないこと。